【第三種郵便物認可】
日経産業新聞 2011

海外でスマホ 定額のコツ

高額請求トラブル防げ

スマートフォン（高機能携帯電話＝スマホ）が爆発的に普及し、海外出張で利用する人も多いだろう。日本の携帯電話会社は海外でも定額サービスを整えているが、ちょっとした手違いから「帰国後、思いもしなかった高額請求に驚いた」という人も……。海外で安く確実にスマホでデータをやり取りするコツを、外資系のIT（情報技術）企業で働き、海外出張も多いビジネスパーソンに聞いた。

日本ヒューレット・パッカード（日本HP）に勤める重松隆行氏と置田誠氏は、米国のHP本社や海外の展示会などに、それぞれ年数回のペースで足を運ぶ。最近はパソコンに加えスマホを携行。仕事のメールの返信などちょっとした作業はスマホで済ませている。もちろん海外定額サービスを利用し、街中で地図を見るなど国内同様の利便性を手のひらの上で享受している。

2人は「国内では契約先にしかつながらないスマホも、一歩海外に出れば複数の携帯電話会社につながってしまうことに要注意」と口をそろえる。定額サービスの手続きをしただけでは、安心できないというのだ。

「青天井」の料金

日本のNTTドコモなどは各国の携帯電話会社とローミング（相互乗り入れ）で合意して、海外での定額サービスを実現している。ただ、その通話や通信は、限られた業者のネットワークを利用することが前提。つまり協定を結んでいない業者を経由してアクセスすると、従量課金制の"青天井"で料金がかかってしまう。

日本HPの置田氏は海外定額サービスが始まった当初に「1日で5万円の料金を請求された」経験を持つ。定額サービスの業者への接続は確認したものの、電波が途切れる地下やトンネルを抜けるたびに接続先が自動的に変更されるのを見逃してしまった。多くのスマホは、接続先の携帯電話会社を電波状態に応じて勝手に選んでしまう。

そこで欠かせないのが、スマホの回線を、定額サービスの携帯電話会社に固定させること。NTTドコモやKDDI、ソフトバンクモバイルは具体的な設定方法をウェブサイトなどで公開している。国民生活センターによると長期出張から帰国した後、100万円超の高額請求をされた例もあるので、出張や旅行前には目を通しておきたい。

もっと確実な方法を実践しているのが日本マイクロソフトで品質管理を担当する越川慎司氏だ。

インターコミュニケーションズは携帯型の無線LANルーターの海外版を1日単位で貸し出す

海外で安価に手軽にデータ通信するための主なサービス

提供元	サービス名	1日当たりの料金	国と地域の数
携帯電話会社の海外定額サービス			
NTTドコモ	海外パケ・ホーダイ	最大2980円	49
KDDI	海外ダブル定額	最大2980円	31
ソフトバンクモバイル	海外パケットし放題	最大2980円	67
イー・モバイル	海外データ1日定額	最大2880円	14
海外版の携帯型無線LANルーターの貸し出しサービス			
JALエービーシー	レンタルWiFiルーター	1150円	7
インターコミュニケーションズ	グローバルデータ	1580円	195
ジーエービー	ジーコール	990円	38
テレコムスクエア	ワイホー	1500円	35

通信会社を固定／無線ルーター利用

海外版の無線LAN（構内情報通信網）ルーターを中継基地にして、スマホをつないでいる。スマホのみでのデータ通信は行わない。

1日単位で貸し出す専門業者がいくつかあり、渡航のたびに契約するのだという。ルーターは出発当日に空港の窓口で受け取ったり、前日までに宅配便で自宅などへ配送してもらったり。「現地に着いて電源を入れるだけで料金を気にせずすぐに安心して使える」

パソコンや多機能情報端末（タブレット）、携帯型ゲーム機なども同時にネット接続できる利点も見逃せない。毎月1週間程度ずつ米国本社へ出張する越川氏は、現地で移動中、状況に応じてスマホとパソコンを使い分けて作業することが多い。「社内にいるかのごとく、どの機器でもすぐにネットに瞬時につながり作業に取りかかれる。忙しい出張中だからこそありがたい」

越川氏がよく利用するという、ルーター貸出業者のインターコミュニケーションズは、元々海外向け携帯電話を貸し出していたが、2010年4月に携帯型無線LANルーターの取り扱いを始めた。「9月の利用者数は約8000人で、累計で7万人が活用した」（佐々木信吾取締役）

対応地域多く

料金は1日あたり1580円。3日前までに予約すると1280円に割り引く。スマホの海外定額サービスは1日あたり1980～2980円なので割安感がある。

カバーする国や地域数も多い。NTTドコモ（49の国や地域、以下同）やKDDI（31）、ソフトバンクモバイル（67）なのに対し、同社は現在195の国や地域に対応している。「アジアや中東、中南米など携帯電話網が未発達の場所だからこそ、低速でも確実に通信手段を確保したいという顧客の声に応えた」（佐々木氏）

欠点は、スマホと2台持ちする必要があること。しかも、連続通信時間は約4時間で、海外出張で使うとなると、やや心もとない。外付けバッテリーをオプション契約で借りる対策などが欠かせず、思案のしどころだろう。（高田学也）

携帯電話ジャーナリスト 石川温氏

こんなやり方も

数年前まで海外でいつでもどこでも自由にデータ通信するには手段が限られ非常に苦労した。スマホが普及したおかげで海外定額サービスという思わぬ副産物を生み出し、格段に状況が改善された。1日最大2980円を高いと感じるかもしれないが、利便性とコストをてんびんにかければおお得ではないだろうか。

「スカイプ」で通話料安く

現地でプリペイド式購入

個人的には、スマホにインターネット通話ソフト「スカイプ」などのアプリも組み込んでおき、海外出張や海外旅行では通話料も押さえる工夫をしている。ローミング時に海外で通話すると1分ごとに100円以上かかる場合が少なくなく、着信時にも課金されてしまう。スカイプで電話を受発信する環境を整えておくと、相手もスカイプなら無料。つまりいくら通話しても海外定額サービスの料金の範囲内で済む。

上級テクニックだが、渡航先の現地でプリペイド（料金前払い）方式のSIMカードを携帯電話店などで購入すると、通信料を"激安"に抑えられる。ただし、複数の通信会社で使える特殊な「SIMフリー」と呼ばれるスマホや携帯型無線LANルーターも現地で調達し、これに装着する必要がある。

言葉の壁や携帯文化の違いを乗り越えるのは一筋縄ではいかないが、実現した際のうまみは大きい。国や地域、携帯電話会社によってまちまちだが、1カ月使い放題でわずか2000円で済む場合も。万人に進められる方法ではないが、長期にわたって海外に滞在する場合はチャレンジする価値はある。